

(令和3年10月試験研究業務月報)

試験研究課題：酒造適性と収量性を向上させた新しい酒造好適米の育成と安定生産技術の
確立

研 究

新しい酒造好適米の収量調査を実施

京都府独自の酒造好適米「祝」は、府内の酒造メーカーで広く利用されていますが、生産現場では収量が確保しにくいこと等が、酒造現場では精米や吸水の際に米粒が割れやすいこと等が問題となっているため、生物資源研究センターが「祝」の品種改良に取り組み、品種候補1系統を選抜しました。

農林センターでは、新しい酒造好適米の特性を最大限発揮する条件を確立するため、移植時期、施肥、栽植密度などの条件を変えた栽培試験を実施し、成熟期に収量調査を実施しました。

今後、所内試験と現地試験を実施することで、新しい酒造好適米の安定生産技術の確立を進めていきます。



収量調査を実施



左が「祝」、右が新しい酒造好適米